

編集後記

▼「現代宗教研究」第十八号をお届けします。立正大学名誉教授宮崎英修先生が現宗研所長に就任されて一年有余がすぎました。所長には、各教区管内での教化講演、講義の多忙な一年でありました。その中から、經典に裏付けられた、日蓮聖人の仏法における合理性と神秘性について、北海道教区教化研究会議での講演要旨を掲載しました。

▼昭和二十年から今日までに、寺院の存在に二度の危機があったように思われます。一度は、農地解放政策によって、それまで寺院の財源をささえてきた田畑が、寺院の所有から手ばなされて少なからず寺院の運営に困難を来した時、二度目は、新興宗教の進出、そして高度経済成長による産業・人口の都市集中化、地方における労働力・経済力の低下、それらの結果生じた農山魚村の過疎化、挙家離村等の現象によって地方寺院に顕著にみられる、寺院の孤立化と無人化であります。教化の核であるべき、このような農山村寺院の今後いかにあるべきかが、今日大きく問われています。現宗研では、『昭和五十五年度宗勢調査報告書』に基づいて、地方寺院の現況を把握することに努めてきましたが、調査するに及ん

で、特に過疎指定地域に存在する寺院は、いままでの在り方では、その存続に限界がある感を懐いたのは否めません。そうした寺院の後継者難も多く伝えられています。今回は、山梨県早川町並びに福井県寺院調査を特集として報告しました。一方では都市の過密化現象がみられ、急激に発展している近郊における布教化の拠点作りの必要に迫られ、その対策と展望が待たれています。

▼第二回集会の発表要旨を報告しました。今後も多くの教師の活動発表を念願しています。また今回は『日蓮主義研究』として二つの論稿を掲載しました。石川教張師は、いままであまり触れられることのない宮沢賢治の日蓮聖人像を論究し、高橋の小論は、従来、等閑視されてきた『戒体即身成仏義』にみられる聖人青年期の意識より、本書の聖人思想史に占める位置を問うたものです。

▼現宗研は、以前より本誌の日蓮宗全寺院配布をめざして来ましたが、この度皆様のご理解とご支援によりまして、本年度より全寺院配布が実現できました。これを期に、さらに内容の充実にも努めていきたいと思えます。今後ともご叱正とご鞭撻のほどお願い致します。
(高橋謙祐)